

令和3年度

ふじ塚遺跡 発掘たより(4)

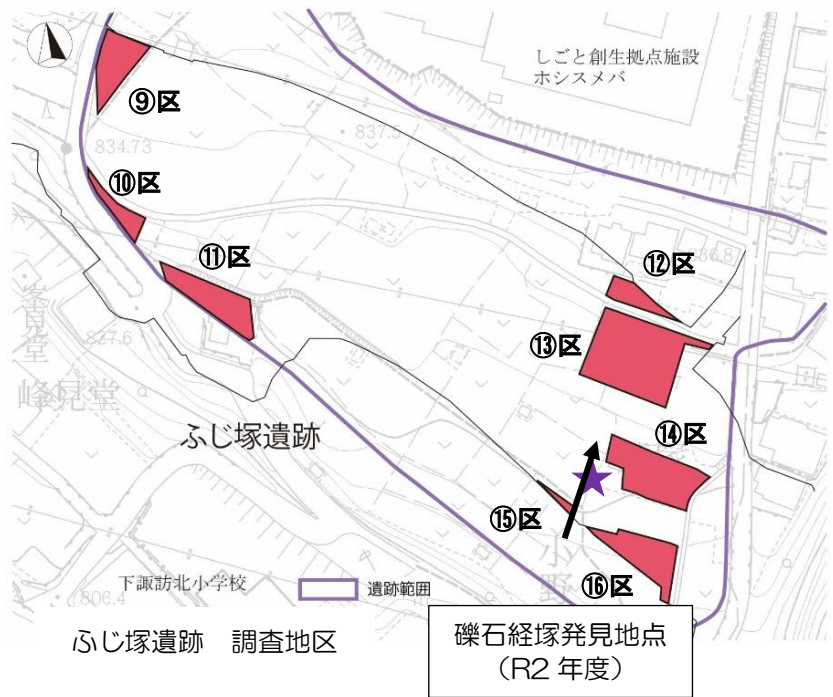
今年度の発掘調査は終了しました。

昨年度は、遺跡内にあった「ふじ塚古墳」が戦国時代から江戸時代の初め頃の「礫石経塚(れきせききょうづか)」であることが分り、大きな成果がありました。

本年度の発掘調査は4月下旬から開始し、8月末で終了しました。今回は、礫石経塚のまわりを調査しましたが、礫石経塚に関する遺構は確認できませんでした。しかし、土坑や溝跡が見つかり、縄文時代の土器と中近世の陶磁器、黒曜石製の石鏃などが出土しています。

遺跡の東側での調査

⑩区では、土坑が4基見つかりました。重機を使って表土を掘削した後、両刃鎌で平らに削り遺構を検出しました。すると、直径1mほどの円形をした褐色土の分布がいくつか見つかりました。掘り下げたところ、深いもので1mほどあり、そのうち1基には、底面の中央に底坑ピットが見つかりました。黒曜石の破片が出土しただけなので、詳しい時期はわかりませんが、形状から縄文時代の落とし穴と考えられます。



⑩区の調査風景 ○が土坑



底面に掘り込みのある土坑(落とし穴か)



⑩区の土坑4基（底面が楕円形をしている穴は長軸方向に手を広げている）



今回の調査で出土した
ほぼ完全な形の黒曜石製の石鏃

礫石経の整理作業

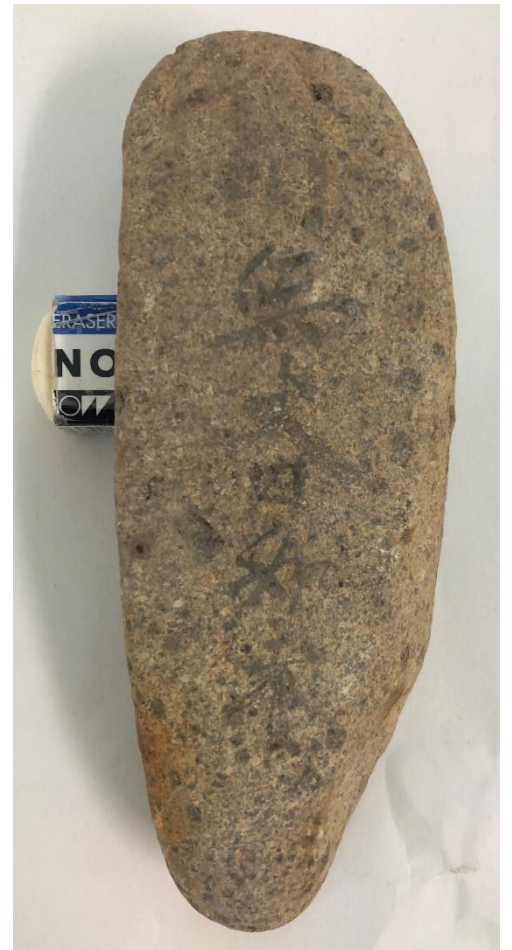
今年度4月から、埋文センターで昨年度調査した礫石経塚から出土した礫石経の整理作業を行っています。約40,000点出土した礫石経に付着している土払いと洗浄を昨年12月に始めましたが、この8月末で終了することができました。今後は、礫石経に注記する作業を行います。

礫石経は、ひとつの石に1字もしくは数字書写されているもの（一字一石経）が大半ですが、「南無大日如来」のような經典の文字（経文）や、梵字が書写されているものがありました。

今後は、すべての礫石経に出土した位置を記入する注記作業と、書写された文字のさらなる観察を行いますので、新しい発見があることが期待されます。



梵字（大日如来）が書写された礫石経



「南無大日如来」と書写された礫石経

発掘期間中はご協力いただき、ありがとうございました。

今年度後半のふじ塚遺跡の作業は、センターで礫石経を中心として、遺構や遺物の整理作業を進めていきます。

ふじ塚遺跡 発掘たより 第4号

発行日：令和3年9月1日

担当者：長谷川・河西・綿田

長野県埋蔵文化財センター

TEL：026-293-5926